

子と親が生きる力を育む  
離島・過疎地域の育み場  
「シマ育」

---

令和5年度  
事業報告書



離島経済新聞社



# 資料目次

---

総括	3
1. 事業報告	4
1.1. 離島・過疎地域における先進的共育モデル調査	
1.2. 共育環境との出会いを希望する子育て層の意識調査およびモニタリング	
1.3. 専門家および関係団体ヒアリング	
1.4. マatchingプラットフォームの構築・広報・運用	
1.5. 勉強会の実施	
2. 事業のソーシャルインパクト	46
2.1. チラシ配布実績	
2.2. 広告掲載実績	
2.3. 事業のソーシャルインパクト	
3. 来年度に向けての取り組み	50
3.1. 事業で得られた成果と課題	
3.2. 次年度以降の取り組み	



## 事業総括

### ● シマ育勉強会(10回開催)の成果

- サイト立ち上げ以前(7月より開始)から継続的に実施しているシマ育勉強会について、既に下記のような効果が見られている
  - 11月に実施した離島の求人をテーマにした勉強会を經由し、小宝島の寮監の方1名が採用決定
  - 12月に実施した離島留学を検討中の親子をターゲットにした勉強会を經由し、鹿島小学校(鹿児島県薩摩川内市)の離島留学生が2組決定、来年度の枠が埋まった

### ● シマ育モニターツアーの成果

- 11月に実施した離島留学モニターツアーを経て、来年度の離島留学が1組決定

### ● 実証できたこととソーシャルインパクトの可能性

- 離島への興味関心を持っているユーザーをセグメントし、直接ユーザーニーズにアプローチする手法で、実際のアクションにつながるという成果を上げることができている
- 人口規模が小さい離島においては、1組の離島留学が決まることで、その後の持続可能性に大きな影響を与えることができると考えられる



# 1. 事業報告



## 1.1 離島・過疎地域における先進的共同養育モデル調査

- 内容
  - 先進的事例のある共同養育環境を訪問し、現状を把握
- 調査数
  - 12市町村の離島
    1. 天売島・焼尻島(北海道羽幌町)
    2. 佐渡島(新潟県佐渡市)
    3. 中ノ島(島根県海士町)
    4. 知夫里島(島根県知夫村)
    5. 答志島・菅島(三重県鳥羽市)
    6. 小川島・馬渡島・高島(佐賀県唐津市)
    7. 下甕島(鹿児島県薩摩川内市)
    8. 屋久島・口永良部島(鹿児島県屋久島町)
    9. 沖永良部島(鹿児島県知名町・和泊町)
    10. 悪石島・小宝島・宝島(鹿児島県十島村)



## 1.1.1 天売島・焼尻島(北海道羽幌町)

日時:2023年6月19日(日)~21日(火)

訪問先:羽幌町教育委員会、天売ちびっコランド、天売高校、学生寮、民間下宿、焼尻研修センター

### ● 主な取り組みと課題

- 天売高校は夜間定時制であり、昼間は漁や宿泊施設で働き、夜に通学するという特徴的な取り組みを行っている。
- 独自のWEBサイトを持っているため、生徒自ら検索して志望するという例もある。
- 受け入れは羽幌町教育委員会が窓口となり、ミスマッチが起きないように個別に丁寧な対応を取っている。
- 課題は受け入れ可能な住居が整っていないこと。現状は寮と下宿1ヶ所ずつで受け入れをしているが、これ以上人数を増やすのは現実的に難しい。





## 1.1.2 佐渡島(新潟県佐渡市)

日時:2023年6月26日(月)~28日(水)

訪問先:佐渡Uターンサポートセンター、内海府小学校・中学校、松ヶ崎小中学校、子どもの元気は地域の元気プロジェクト、佐渡市移住交流推進課・総合政策課、沢根保育園

- 主な取り組みと課題

- 佐渡島の小中学校では、内海府小中学校と松ヶ崎小中学校の2校で離島留学の受け入れを実施中。高校では羽茂高校、保育園では沢根保育園が令和5年度より離島留学を開始。
- 佐渡は面積が広く、2校は北端、南端に位置しているため課題が異なる。
- 佐渡市の教育委員会には離島留学の専任担当がおらず、移住定住の支援窓口としては移住交流推進課、羽茂高校関連は総合政策課がそれぞれ担当。
- 離島留学の受け入れサポートは民間団体、あるいは地域おこし協力隊が受け持っている状況。
- 内海府小中学校では令和6年度に児童・生徒数の急激な減少が見込まれており、新しい離島留学者の受け入れが喫緊の課題。
- 松ヶ崎小中学校は情報発信などはできているものの、空き家が少ないことがボトルネックとなっている。





## 1.1.3 中ノ島(島根県海士町)

日時:2023年7月17日(月)~19日(水)

訪問先:海士町 里山里海循環特命担当課、隠岐國学習センター、あまマーレ、海士町中央図書館

### ● 主な取り組みと課題

- 隠岐諸島(西ノ島町、海士町、知夫村)の人口減少が続いており、海士町唯一の高校、隠岐島前高校は、2008年度には生徒数1学年28人、全校でも90人と存続の危機を抱えていた。2008年には、「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」が始まり、島外からの留学生受け入れを開始。
- 2015年には、3町村が出資し「一般財団法人島前ふるさと魅力化財団」を設立。
- 2020年からは、隠岐島前高校卒業生や全国各地の意志ある若者を対象とした、海士町独自の【1年間限定】就労型お試し移住制度「大人の島留学」事業を開始。
- 【中長期:大人の島留学・複業島体験】「複業島体験」は2年間、「大人の島留学」は1年間、「就労型お試し移住制度」を活用し、島での仕事や暮らしに挑戦できるプログラム。
- 【短期:島体験】勤務は週に4日で、残りの1日はフォローアップ研修として事務局がサポートする3ヶ月間のインターンシッププログラム。一連の取り組みが奏功し、減少の一途をたどっていた人口も2010年からは横ばいとなっている。







## 1.1.4 知夫里島(島根県知夫村)

日時:2023年9月15日(金)~9月16日(土)

訪問先:知夫里村教育委員会

- 主な取り組みと課題

- 2017年度より離島留学を開始。受け入れは全国の事例を調査し、長所・短所を見極めた上で寮方式を選択。役場や学校からも近い元集会所をリノベーションして寮を整備。
- 令和5年度の留学生は小6から中3までの6名。ハウスマスター4名、コーディネーター1名、調理員のチーム体制で、留学生の生活をサポートする。
- ハウスマスターの仕事は宿泊も伴うので、3名以上必要(3名未満ではうまく休みをとれる体制がとることができない)
- 留学生は、一人ひとりが島でチャレンジしたいことを実現する「100の約束」に取り組み、スタッフだけでなく、地域の住民も留学生のチャレンジをサポートしている。
- ハウスマスターやコーディネーターは、留学生の募集業務も担う。2023年度は10回以上の説明会を実施した後、オンライン面談、短期体験、一次選考、二次選考を経て、留学生を決定。丁寧なプロセスにより、ミスマッチを防いでいる。





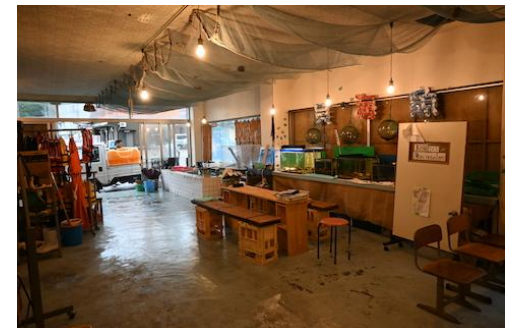
## 1.1.5 答志島・菅島(三重県鳥羽市)

日時:2023年6月12日(月)~13日(火)

訪問先:鳥羽市教育委員会学校教育課、ねやこや(寝屋子の島留学事務局)、答志小学校、答志中学校、菅島の未来を考える会、菅島小学校

- 主な取り組みと課題

- 学校の統廃合問題をきっかけに、2016年に「答志コミュニティスクール実行委員会」が発足。2018年度に離島留学を開始。
- 中学を卒業した男子数名を「寝屋親」に選ばれた地域の世話役の大人が預かり寝泊りさせるなど面倒をみる漁師町の風習「寝屋子」文化を活かした、「寝屋子の島留学」を実施。島ならではの海洋教育を目玉に、前向きな意欲ある留学生を受け入れている。
- 2023年度は2組の留学生が在学。小学校1名(親子留学)、中学校1名(孫留学)。不登校などの課題を抱えた思春期の子どもを預かる場合、里親の負担が大きくなるため、現在、里親留学は募集していない。
- 答志中学に留学中の女子はソフトボールの部活動で成果を挙げ、周囲のモチベーションが上がった。留学生は、勉強熱心で真面目な同級生たちに影響を受けて成績が良くなった。
- 菅島でも現在、子育て世代の移住定住や離島留学を検討中(住居および親の働き口の確保が課題)。





## 1.1.6 小川島・馬渡島・高島(佐賀県唐津市)

日時:2023年6月27日(火)~29日(木)9月20日(水)

訪問先:唐津市地域交流部離島振興室、佐賀県庁地域交流部さが創生推進課、小川小中学校、高島小学校、Retocos 高島 kids 寮、馬渡小中学校

- 主な取り組みと課題

- からつ七つの島活性化協議会が主体となり、離島留学の受入を行っている。
- 県と市からそれぞれ人的、経済的な支援がある。
- 4島への離島留学希望者の面接にはそれぞれ、地元の区長や学校など島民が積極的に関わる。
- 離島留学生への体験として、4島以外の島を含めた島間の交流プログラムを取り入れている。
- 高島に離島留学を受け入れる4島で唯一の寮があり、今年に入り新たな寮母を採用した。
- 唐津市役所の職員間でも離島留学に対する認知度がまばらである
- 離島留学生が入居できる空き家が少ない、空き家があっても「貸したくない」という声もある。
- 小川島では寮の立ち上げ計画があったが島内で反対の声があり、中止となった。
- 馬渡島では来年度いっぱい保育園が閉園するため、未就学児童の子育て環境がなくなる。





## 1.1.7 下甌島(鹿児島県薩摩川内市)

日時:2023年12月3日(日)

訪問先:ウミネコ留学実施委員会、鹿島地区コミュニティ協議会・里親の会、鹿島小学校、鹿島診療所

- 主な取り組みと課題

- 下甌島の鹿島小学校では1996年より「ウミネコ留学」という名称で島外からの留学生の受け入れを開始、累計で300人近い留学生を受け入れている。
- 甌島全体における人口減少に歯止めがかからない状況にあり、ウミネコ留学がなければ学校の存続が難しい状況。
- 下甌島は薩摩川内市の一部離島であることから、メリットとデメリットの両面がある。
  - メリット…里親への委託料のうち半額を市が補助
  - デメリット…事業実施においては市役所との細かな調整が必要となり、スピード感のある対策が打ちづらい
- 今年度は令和6年度からの留学枠がなかなか埋まらず、二次募集を実施(その後、シマ育勉強会を経て1組の留学が決定)
- 受入地域では里親家族の高齢化、後継者問題などの課題がある。





## 1.1.8 屋久島・口永良部島(鹿児島県屋久島町)

日時:2023年8月23日(水)~8月26日(土)

訪問先:屋久島町、金岳小学校、民宿くちのえらぶ(元里親家庭)、屋久島の里親家庭

### ● 主な取り組みと課題

- 屋久島町の小中学校では、屋久島町山海留学連絡協議会(屋久島町教育委員会内)と連携する5地区が離島留学を実施。令和5年度は25名を受け入れている。
  - 【屋久島エリア】永田地区「かめんこ留学」、栗生地区「まんてん留学」、八幡地区「じょうもん留学」、一湊地区「屋久島黒潮留学」
  - 【口永良部島エリア】「南海ひょうたん島留学」
- 1996年から留学生を受け入れる口永良部島では、島暮らしを経験した留学生が成人後、移住者として島に戻ってきた例も。人口100名規模の極小離島にとって、離島留学が地域存続の鍵を握っている。
- 屋久島高校でも「地域未来留学プラットフォーム」と連携し、離島留学生を受け入れている。令和2年度まで平均2~3名だった留学生が令和5年度は7名と増加。県立高校の取り組みを町が推進することに町民から疑問の声が上がることもあるが、県外からの入学生によりクラス数を維持できている。





## 1.1.9 沖永良部島(鹿児島県知名町・和泊町)

日時:2023年5月23日(火)~24日(水)

訪問先:一般社団法人ツギノバ(entaku)、一般社団法人えらぶ手帖(みんなのおうち)、NPO法人SMAPPY (SMAPPY)、NPO法人心音(ダ・ヴィンチ)

- 主な取り組みと課題

- NPO法人SMAPPY

「島の子育てを振り返ったときに喜びあふれるものに」という思いで 2021年にNPO設立。  
一時預かり、子ども食堂やカフェの運営、ヨガやピラティスなどの場の提供に取り組む。  
日本財団より子ども第三の居場所事業採択、8月頃からリニューアル工事。11月開所予定。  
課題は運営資金まわり。レンタルスペース事業の収益性が高いが、空きが目立つ。

- 一般社団法人えらぶ手帖

認定NPO法人カタリバ職員から、知名町地域おこし協力隊に。2017年に法人設立。  
2022年5月に子ども第三の居場所「e.lab(イーラボ)〈みんなのおうち〉」開所。  
島内で最も生徒数の少ない十数名の上城小学校の離島留学受け入れを行っている。  
地域の人に開かれた場所にしたいが、市街地から離れた場所にあるという地理的課題がある。

- 一般社団法人ツギノバ

2023年2月に沖永良部島でコミュニティスペース「entaku(エンタク)」設立。  
月1回ずつ、子どものキャリア形成を目的としたイベントとワークショップを開催。  
「オープンキッチン」として週3回、18歳以下は無料でランチを食べられる場を提供。  
生活困窮者の支援というより、みんなで楽しく食卓を囲もうというコンセプトで行っている。日本財団の子ども第三の居場所の助成を受けているが、3年後は自走できる前提で進めており、寄付などはお断りしている。





## 1.1.10 悪石島・小宝島・宝島(鹿児島県十島村)

日時:2023年10月7日(土)~12日(木)

訪問先:小宝島島民(子育て支援員、元教師など)、小宝島寮、小宝小中学校、悪石島小中学校、悪石島寮、宝島小中学校、いまきら園、十島村教育委員会

- 主な取り組みと課題

- 元留学生の夫婦が今年度始まった寮の寮監になり、寮生と地域の交流が進んでいる(小宝島)
- 子育て支援施設に5年間、保育士などの専門員がいない。募集しているが応募がない(小宝島)
- 日本人女性とフランス人男性の夫婦が、令和4年度に始まった寮の寮監に。寮則を明文化し、実親とLINEでやりとり、学校と定期的に話す場を設けるなど、情報共有に努めている(悪石島)
- 若い移住者や先生が多く、週末に大人と子どもがサッカーで遊ぶなどしている(悪石島)
- 年に1,2度は雷が落ちて電子機器が使えなくなるため、ハード面での心配が尽きない(悪石島)
- 島出身の女性が3年前にUターンして、保育士として勤務(宝島)
- 校長室を常時開放しており、ゲームやアニメのフィギュアが置かれてあり、子どもたちが自由に行き来している(宝島)
- 校長先生がブログで学校の様子をほぼ毎日更新している(宝島)
- 山海留学生も含めて特別支援のニーズもある中で、教室環境が限られている(宝島)





## 1.2 共同養育環境との出会いを希望する子育て層の意識調査およびモニタリング

- **内容**

- 共同養育環境との出会いや短期・中期滞在や移住定住を希望する潜在層へのニーズ調査を行い、モデル家庭による現地モニタリングを行った

- **手法**

- 有人離島専門メディア『ritokei』上から協力者を募集し、オンラインアンケートおよび現地体験会(モニターツアー)を実施する

- **目標**

- 調査数:30組
- 現地体験会(モニターツアー):3組

- **結果**

- 事前アンケート(ニーズ調査):17組
- 意識調査(オンラインインタビュー):16組
- 合計:33組





## 1.2.1.1 意識調査(オンライン)概要

- アンケート手法
  - リトケイ内に特設ページ開設  
(<https://ritokey.com/information/shimaiku2023>)
  - Googleフォームにて協力者募集  
(<https://forms.gle/FUKNQb43MEh4xSns8>)
- 対象
  - 離島留学をはじめとした島の養育環境に興味があり、幼児～小学生の子どもがいる本土地域在住のご家族
- 聴き取り方法
  - 事前アンケートの内容に基づき、オンラインにて30分程度聴き取りを実施

【親子モニター&ヒアリング協力者募集】「島で子どもを育ててみたい」島の共同養育環境に興味のある親子を募集します

📅 2023/06/01





## 1.2.1.2 事前アンケート

- **ヒアリングにあたり、事前に下記項目について回答を依頼**

【質問1-2】ご年齢を教えてください。

【質問1-3】家族構成について教えてください。

【質問1-4】あなたのご両親の出身地はどちらですか。

【質問1-5】子ども時代に島で過ごしたことはありますか。

【質問2-1】普段、子育てや教育についての情報はどのような方法で得ていますか？

【質問2-2】子育てや教育について、愛読しているメディアがあれば教えてください。

【質問2-3】島の共同養育環境を知るために「こんな情報が欲しい」と感じるものはありますか？

【質問3-1】お子さんに離島留学を経験させたいと思いますか？または思ったことがありますか？

【質問3-2】(質問3-1で[経験させたいと思うが、課題がある][全く思わない][思わない]と回答された親御さんにお聞きします)回答の理由を教えてください。

【質問3-3】(質問3-1で[とても思う][思う]と回答された親御さんにお聞きします)離島留学に期待すること、または期待したことは何ですか？

【質問3-4】(質問3-1で[とても思う][思う]と回答された親御さんにお聞きします)一方、不安に感じること、または不安に感じたことはありますか。

【質問4-1】子どもに離島留学を経験させる場合、希望する学校の規模(全校児童・生徒数)について教えてください。

【質問4-2】離島留学を経験させる場合、希望する期間はどのくらいですか？

【質問4-3】お子さんに離島留学を経験させる場合、希望する形態はどれですか？

【質問4-4】子どもに離島留学を経験させる場合、希望する期間・想定費用を教えてください。

【質問4-5】上記以外に、子どもに離島留学を経験させる場合、希望する条件があれば教えてください。

【質問4-6】離島留学先を検討する際、受け入れ地域や施設について、どのような点を重視しますか？ ※優先度の高いものを最大3つまでお選びください。

【質問4-7】離島留学の検討状況についてご回答ください。【質問5】そのほか「島の共同養育環境」について知りたいことや、ご意見・ご要望などがあれば自由にお書きください。



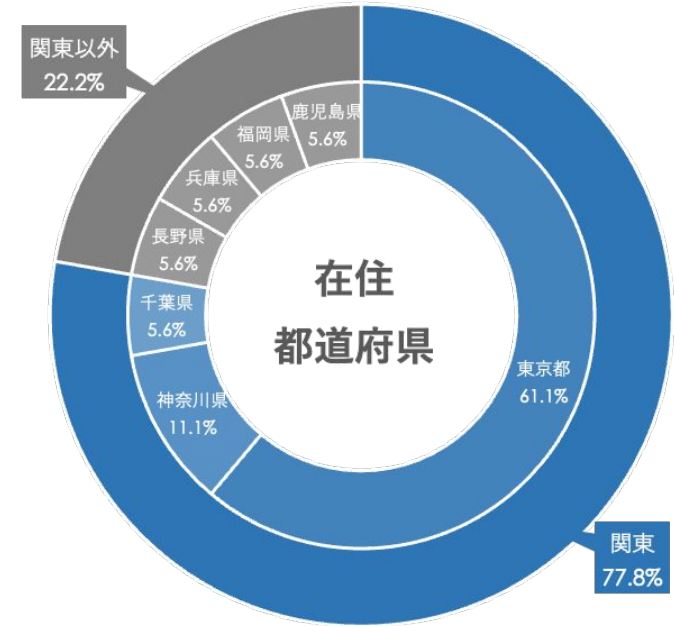
## 1.2.1.3 事前アンケート回答者の属性

### ● 基本情報

- 保護者のお名前(フリガナ)
- お子さまの人数(ご年齢)
- ご興味のある島の養育環境(複数回答可)
- 応募動機
- 連絡先(メールアドレス)
- 居住地

### ● 回答者の基本属性

- 居住地では関東圏が8割弱、それ以外では西日本が多い
- 一世帯あたりの子どもの数は1.78と全国平均とほぼ差がない
- 年代は40代が8名、30代が7名、50代が2名
- うち独身者は40代で1名、50代で1名



有効回答件数: 17件

	年代別	うち独身
30代	7名	0名
40代	8名	1名
50代	2名	1名
<b>総計</b>	<b>17名</b>	<b>2名</b>



## 1.2.2.1 意識調査(オンライン)概要

- **聴き取り方法**

- 事前アンケートの内容に基づき、オンラインで30分程度聴き取り

- **基本情報**

- 保護者のお名前(フリガナ)
- お子さまの人数(ご年齢)
- ご興味のある島の養育環境(複数回答可)
- 応募動機
- 連絡先(メールアドレス)
- 居住地

- **意識調査数**

- 16組

- **インタビューフロー&項目**

- 1)〈人物背景の探求〉

- ①留学タイプ、希望期間の確認とその理由
- ②普段の生活における嗜好性、考え方

- 2)〈検討動機の探索〉

- ③なぜ離島での共同養育検討しているのか(きっかけ・困りごと)
- ④離島での共同養育に求めるもの(自然環境、独自の教育内容、豊かなコミュニティetc)



## 1.2.2.1 意識調査(オンライン)結果抜粋

### なぜ離島での共同養育を検討しているのか(きっかけ・困りごと)

- 東京都で子育てをするデメリットは、自然体験が少なくなること。それを補うためには何ができるか？自然の多い環境はなかなか与えてあげられず、たまにレンタカーを借りて自然のある場所へ連れて行っている程度。その環境を補うためには何ができるか？と考え、離島留学(短期モニター体験)に至った。
- 普段はフルタイムで働いており、両家が遠方なため祖父母との交流もほとんどなく、様々な経験を与えてあげるのが難しい状況であるので、離島留学をきっかけに自然の中で過ごす体験を与えたいと思った。グランピングに行った際に子供がとにかく楽しそうだった。
- 離島留学の情報に出会わなかったら、南房総でヶ月くらい子供とリモートワーク(※ワーケーション)しようと思っていた。北海道の保育園留学も検討したが、料金が高すぎるのでコスパが悪いと判断した。
- 去年、一番下の子が生まれたタイミングで、7歳の子が不登校になった。最初は赤ちゃん返りかと思ったけど、それだけではなさそう。弟に対して明確な不満があるわけではなく、愛してくれている状況ではある。現在は夏休みに入り余裕もできたので落ち着いてきたが、何か月か前は家の中の空気が重かった時もあった。
- 不登校の息子にしばらく向き合っているうちに、親である自分自身が「まあいっか」と思えるタイミングがあり、そこから少し楽になった。今から考えると、不登校になったタイミングで、学校に行こうとさせすぎた。自分自身が「もういっか」と思えて、息子はゆっくり休む必要がある、と思えた時に、自分が楽になった。



## 1.2.2.1 意識調査(オンライン)結果抜粋

### 離島での共同養育に求めるもの(自然環境、独自の教育内容、豊かなコミュニティetc)

- 自然がいっぱいの島で滞在することで、普段できない経験を子供に与えたい。
- 東京でできないことを現地で学んでほしいと考えている。環境を変えることで子供の価値観がガラッと変わると思う。世の中の多様性も重視したいし、伝えたいことの一つ。現在の台東区の暮らしでは、子供はものすごく便利な環境にいる。その一方、なんでもかんでも便利すぎて、暮らしの中で便利すぎるのが当たり前になっている。そうでない世の中もあり、その世界に接することで自分がいかに恵まれた環境にいるかを理解してほしい。人からの言葉で言われるより自分で体験するほうが強烈に伝わるので、それを自分で体感してほしい。
- コロナをきっかけに、健康のことを差し置いてまで学校に通わなければいけない、など、強制されることが多いと感じるようになった。さまざまな強制に抵抗感を感じ、ほかに選択肢がないか、探すようになった。田舎での子育てならそのようなことも少なくのびのびと暮らせるのではないかと考えている。
- 子供の人格形成には、学校以外の要素が多いと思う。学校以外の生活の中で、自然に触れる経験は、大人になったときに宝物になるのでは。島での暮らしにはそれがあると思っている。



## 1.2.2.2 ペルソナでのターゲット分類 類型①「自然教育指向パターン」

### ①自然教育指向パターン

ミドルアッパー層で、子供の教育への関心度が高い。自分が幼少期に田舎で暮らしている経験があり、それが原体験になっているが、都会で暮らしている今、子供にそのような体験を与えられていないことにジレンマを抱える。教育への関心は高いが、偏差値重視の現行教育ではなく体験重視で人間力を養いたいと考えている

中所得以上  
自分自身も仕事をしている

**体験重視**

お受験～上位校へ進学、という王道パターンに疑問を持っている

日常では自然環境にアクセスするのが困難

感性を育むタイミングで自然の豊かな環境に身を置きたい

発達障害グレーゾーン。都会だと社会集団の中でコントロールしていかないといけない機会が多く、そのような傾向が見える化されてしまう。画一的な物差しで測られる機会が多い。自然の中の暮らしだと見えてこない不が、顕著化する。

向上心が高く、自己研鑽に積極的

情報収集はネット信頼できる人の口コミ

自分自身の子供時代に、自然のなかでのびのびと遊んでいた原体験がある

短期移住に興味あり  
長期移住はイメージなし

子育ての中での「自分探し」

ワーケーション興味あり

サマースクール経験あり

離島経験は沖縄くらい

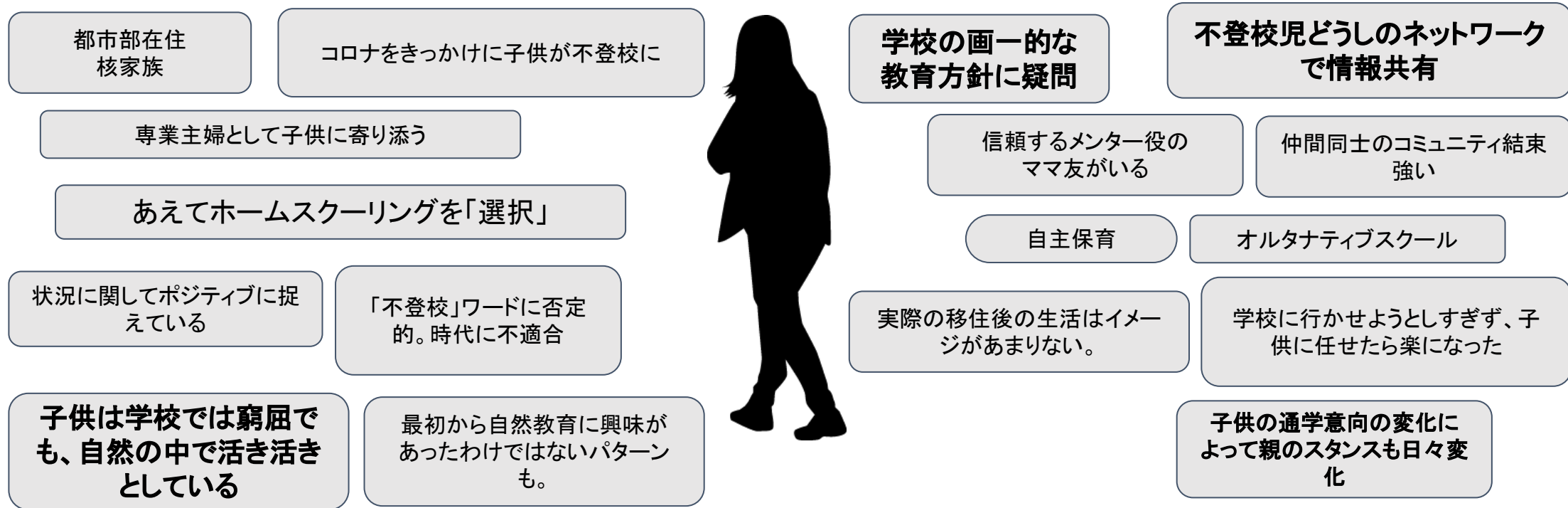




## 1.2.2.2 ペルソナでのターゲット分類 類型②「不登校パターン」

### ②不登校パターン

子供の不登校は問題ではあるが、同時に現在の画一的な学校教育、特に都市部のマンモス校での教育環境に疑問を持っており、親自身が教育に不信感を抱えている。同じ不登校の子供を抱える親同士など、価値観の近い仲間情報共有をし、支えあいながら暮らしている。







## 1.2.2.2 ペルソナでのターゲット分類 類型③「離島好きパターン」

### ③離島好きパターン

自分自身が以前から島での暮らしに憧れていて、いつかは住んでみたいと思っていた。子供が生まれたことにより、子育て環境を考えると島に住みたい思いはより一層強くなっている。仕事に対しても柔軟で、手に職があったり、こだわりがなく何の仕事にも従事する意思があるので、仕事面はボトルネックにならない。

山村留学じゃなく「離島留学」が必然

移住後の仕事など暮らしについては具体的にイメージがある

手に職があるので島でも働ける、もしくは「なんでもやる」のポジティブマインド

地域コミュニティに対しても好意的で、島の価値の一つと捉えている

家族全員が肯定的な場合は決定までスピードが速い



離島留学というより子育て移住を希望

教育環境というより、「住みたい島」という選択基準

子供自身はいまの環境に困っていないので、移住に肯定的でないケースも。

緊急度の高い必然性があるわけではないので、「いつか島に住めたらいいな」

子供が生まれたことにより移住が非現実的になっているケースも。

アクティブな性格だが子供が生まれてスピードが落ちている



## 1.2.3 現地モニタリング(モニターツアー)

### ● 経緯

- 意識調査に参加いただいた子育て層の親子から、離島留学の検討度合いや離島の環境とマッチしそうな方を3組選出。現地モニタリング(モニターツアー)を行った。
- 現地調査の結果を踏まえ、下記の理由から佐渡島の内海府小学校を行き先として選定。
  - 内海府小中学校は来年度の留学生が急激に減るおそれがあり、離島留学の受け入れが喫緊の課題であること
  - 島内に総合病院があり、不測の事態にも対応できること
  - 島内の中心部は都市化されており、離島の生活に慣れていない方でも適応しやすいこと
- 内海府小中学校の文化祭・学校説明会に合わせ、2泊3日で設定

### ● 概要

- 実施日:2023年11月3日(金・祝)~11月5日(日)
- 参加者:親子3組(大人4名、子ども2名)
- 行き先:新潟県佐渡市 内海府小中学校



## 1.2.3.1 現地モニタリング(旅程)

### ● 旅程

11月3日(金)	
10:40 - 12:32	東京駅→新潟駅
08:40 - 09:45	伊丹空港→新潟空港
10:00 - 10:25	新潟空港→新潟駅【リムジンバス】
	各自でランチ、新潟港までは各自移動
13:00	新潟港佐渡汽船ターミナル集合
13:35 - 14:42	新潟港→両津港
15:00 - 15:30	両津港→佐渡U・Iターンサポートセンター
15:30 - 17:00	佐渡U・Iターンサポートセンター
17:00 - 17:30	佐渡U・Iターンサポートセンター→宿
17:30 - 18:30	チェックイン、フリータイム
18:30 - 21:00	夕食
	以降フリータイム

11月4日(土)	
07:30 - 08:00	朝食
09:00 - 09:30	宿→西三川ゴールドパーク
09:30 - 11:00	西三川ゴールドパーク
11:00 - 12:00	西三川ゴールドパーク→リゼむ
12:00 - 13:30	ランチ交流会
13:30 - 13:45	リゼむ→佐渡総合病院
13:45 - 14:30	佐渡総合病院小児科見学
14:30 - 14:40	佐渡総合病院→スーパーマツヤ
14:40 - 15:30	スーパーマツヤ
15:30 - 16:30	スーパーマツヤ→内海府
16:30 - 17:45	チェックイン、フリータイム
18:00 - 20:00	懇親会
	以降フリータイム

11月5日(日)	
07:30 - 08:00	朝食
08:00 - 09:45	フリータイム
10:00 - 14:45	内海府小中学校文化祭参加
12:00 - 13:00	給食
13:00 - 14:45	内海府小中学校説明会参加
14:45 - 15:30	内海府小中学校→佐渡汽船ターミナル
16:05 - 18:35	両津港→新潟港
19:00 - 19:15	新潟港→新潟駅
19:30	解散
19:42→21:52	新潟駅→東京駅
	新潟市内泊(関西方面の方のみ)



## 1.2.3.2 現地モニタリング(実施風景)





### 1.2.3.3 現地モニタリング(実施結果)

- **参加者からのアンケート抜粋**
  - 参加前の気持ち
    - ポジティブ
      - 地域の人たちのお話を聞いたり、佐渡の暮らしを体感できることがとても楽しみ
      - 子どもと佐渡の歴史を調べるのが楽しかった
    - ネガティブ
      - 交通事情が分かりにくい
      - 子どものアレルギー問題、また、病院などの設備で不安があった
  - 参加後
    - 満足度は概ね高く、特に食に関する満足度が高かった
    - 訪問スポットの中では地元のスーパーや病院など、旅行ではあまり行かないが生活する上で重要なポイントを回れたことで、移住者の視点で島を捉えてもらうことができた
    - 同じ目的で参加した家族同士で交流が生まれ、SNSグループで連絡を取り合うようになり、コミュニティが形成できた



## 1.3 専門家および関係団体ヒアリング

- **内容**
  - 専門知識を要する専門家および関係団体へのヒアリングを実施
- **目的**
  - 離島・過疎地の子育て教育環境の価値や課題を専門的見地から言語化
  - 離島・過疎地の子育て教育環境魅力化のための具体的手法を言語化
- **手法**
  - オンラインおよび対面でのデプス形式
- **ヒアリング先**
  1. 汐見稔幸氏
  2. 中能孝則氏
  3. 根ヶ山光一氏
  4. 松本俊彦氏
  5. コングラント／リタワークス



## 1.3.2.1 ヒアリング結果(汐見稔幸氏)

- **目的**

- 離島・過疎地の子育て環境の価値を言語化するため、(一社)家族・保育デザイン研究所代表理事で、教育学、教育人間学、保育学、育児学を専門とする汐見稔幸氏にヒアリングを行った。

- **ヒアリング結果(要点)**

- Googleの調査によると、地位や給料の高い優秀な人が持っていた能力は、理科系知識よりも、チーム力やリーダーシップ力、人を励ますのが上手いとか、上手に失敗する力など、学力では身につかないスキル「非認知的能力」だった。
- 昔の人はクーラーも冷蔵庫もない生活をしていた。不便な環境で、頭を使いながら暮らしを豊かにするための方法を努力して身につける。昔の人はそうやって自然と非認知的能力を養うことができていた。けれど今の生活は消費生活になってしまい、暮らしの中では非認知的能力が身につかなくなった。今、世界中の学校現場で非認知的能力の育成に向けた教育改革が進められているが、受け身の勉強では本当の力は育たない。まだまだ不便さがある離島は、かえっておもしろい。



## 1.3.2.1 ヒアリング結果(中能孝則氏)

### ● 目的

- 離島・過疎地の子育て環境の価値を言語化するため、甑島(鹿児島県薩摩川内市)出身で、NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟監事を務める中能孝則氏にヒアリングを行った。

### ● ヒアリング結果(要点)

- 子どもの頃は、自然の中で遊びほうけていた。竹を切って蠟で油抜きをし歪みを直しながら魚釣りの竿をつくったり。自分でつくった竿は何年も大事にとっていて、自分の誇りになった。
- 子ども時代、海で離岸流に流された経験から「これ以上は危ない」という限界を学ぶことができた。自然のなかでの遊びは、自分の限界を知るチャンスでもある。
- 島には都会にはない自然環境がたくさんある。
- 大人には見守る力をもってほしい。子どもは親が近寄ってくると、親を気にして動いてしまう。お父さんお母さんのことを気にせず、子どもが心の動くままに自由に動く距離がある。
- ケガをしないよう大人は子どもに「危ない」と声を掛ける。その時、大怪我をするほどの危険か、そうでないのかを見極める力を身につけるのが大人の仕事。





## 1.3.2.2 ヒアリング結果(根ヶ山光一氏)

- **目的**

- 離島・過疎地の子育て環境の価値を言語化するため、発達心理学者であり、NPO法人保育・子育てアドバイザー協会理事長や乳幼児医学・心理学会理事長も兼務する根ヶ山光一氏にヒアリングを行った。

- **ヒアリング結果(要点)**

- 都会生活はすごくきれいで美しく、整っていて気持ちが良いが、その気持ちよさは人工的なもの。実際の世界には、もっと暑かったり、寒かったり、臭かったりという基礎感覚がある。
- 島にはきれいな空気や自然がある。水のなかで泳いだり、風に当たったり、身体を使って生きるよろこびや、その実感を得ることができる場所。
- 「シマ育」で島と都会の親子がつながるにしても、島の過疎を止めるだけに行われるのではなく、自然を求めてやってくる都会の親子と、クマノミとイソギンチャクのように相互に利益を与える関係になると良い。



## 1.3.2.1 ヒアリング結果(松本俊彦氏)

- 目的

- 子育て教育環境に関する日本全体の課題を言語化するため、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部長で精神科医発達心理学者である松本俊彦氏にヒアリングを行った。

- ヒアリング結果(要点)

- 都会では地域コミュニティが崩壊し、隣に誰が住んでいるかも分からず、親族との関わりも少なくなっている。
- コロナ禍によって遊ぶ機会はさらに失われ、残された空間はスマートフォンの中だけ。コミュニティに飢えていて、自分の価値を再認識できる場所を求めているようにみえる。
- リアルな人間関係が乏しかったり不確かな子ほど、スマホにのめり込む。コミュニケーションにおいては、リアルな場数を踏んでいないと、自分の言葉が相手をどれほど傷つけるのか分からず、相手を評価する価値観も育たない。
- 子どものうちに定期的なデトックスとして、島のような空間で過ごすことは、自然なよろこびを経験する良い機会になり、人間そのものを学ぶ機会にもなる。



## 1.3.2.2 ヒアリング結果(リタワークス/コングラント)

- **目的**

- 子育て支援団体が事業を継続するためのファンドレイジング(資金調達)方法として、NPOのホームページ制作に取り組むリタワークス株式会社、寄付プラットフォームを運営するコングラント株式会社に、寄付を念頭に置いた情報発信事例をヒアリング

- **要点**

- ファンドレイジングは、その規模から「全体財源獲得」「支援性資金の獲得」「寄付集め」の大ききつに分かれ、資金調達でもある一方で、「フレンド・レイジング(友人/仲間づくり)」「ファン度レイジング(ファン度を上げる)」とも呼ばれる。
- 寄付者は「個人」「法人」に分かれ、種類は「都度寄付(一度の寄付)」「クラウドファンディング」「マンスリーサポーター(毎月や毎年の継続寄付)」「会費(賛助会費、年会費)」「遺贈寄付(遺産の寄付)」などに分かれる。オンラインファンドレイジングには「認知・拡散(届ける)」と「理解・行動(伝わる)」の2軸
- サポーターを増やす上で寄付決済の手軽さは欠かせない。かつては銀行振込が主流だったが、現在はクレジットカード決済に加えて電子決済など種類が増加。コングラント株式会社では、同名の寄付プラットフォームを運営。登録する200団体のうち半数以上がクレジットカード決済で寄付を集めている。



## 1.4 マatchingプラットフォームの構築・広報・運用

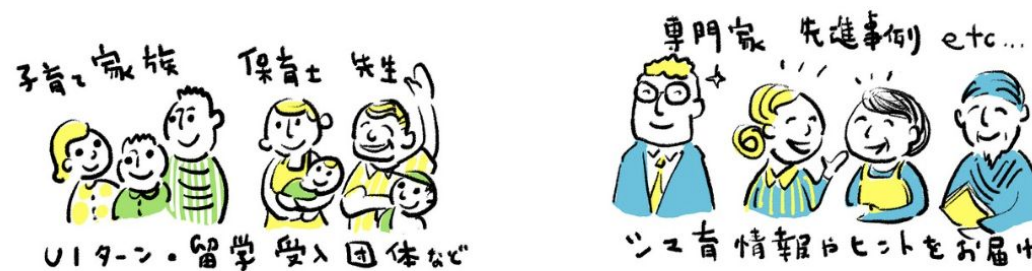
- **マッチングプラットフォームの構築**

- 有人離島専門メディア『ritokei』ウェブサイト内に、共同養育の受け入れ地域情報を集約し、希望者層とのマッチングを図る登録型マッチングプラットフォームを構築。寄付情報などの導線の設置等を図ることで、ファンドレイジング機能を実装した。



- **広報**

- 広報チラシをフリーペーパー『ritokei』の公式設置ポイント等に設置。外部メディアでのニュース掲載も進め、認知拡大を図る。





## 1.4.1 マッチングプラットフォーム(構築)

### ● 島と親子をつなぐ『シマ育コミュニティ』

人口過密地域で「孤独な子育て」に直面する親子と、優れた共同養育環境を持つ離島などの過疎地域を結ぶウェブプラットフォーム。親子は自然豊かで地域で支え合う共同養育環境で「生きる力」を育み、地域社会は活気を取り戻し社会機能維持に寄与。全国の離島とのネットワークを生かしながら、親子と地域コミュニティの双方の課題とニーズの調査、専門家へのヒアリング、勉強会等を実施、発信。

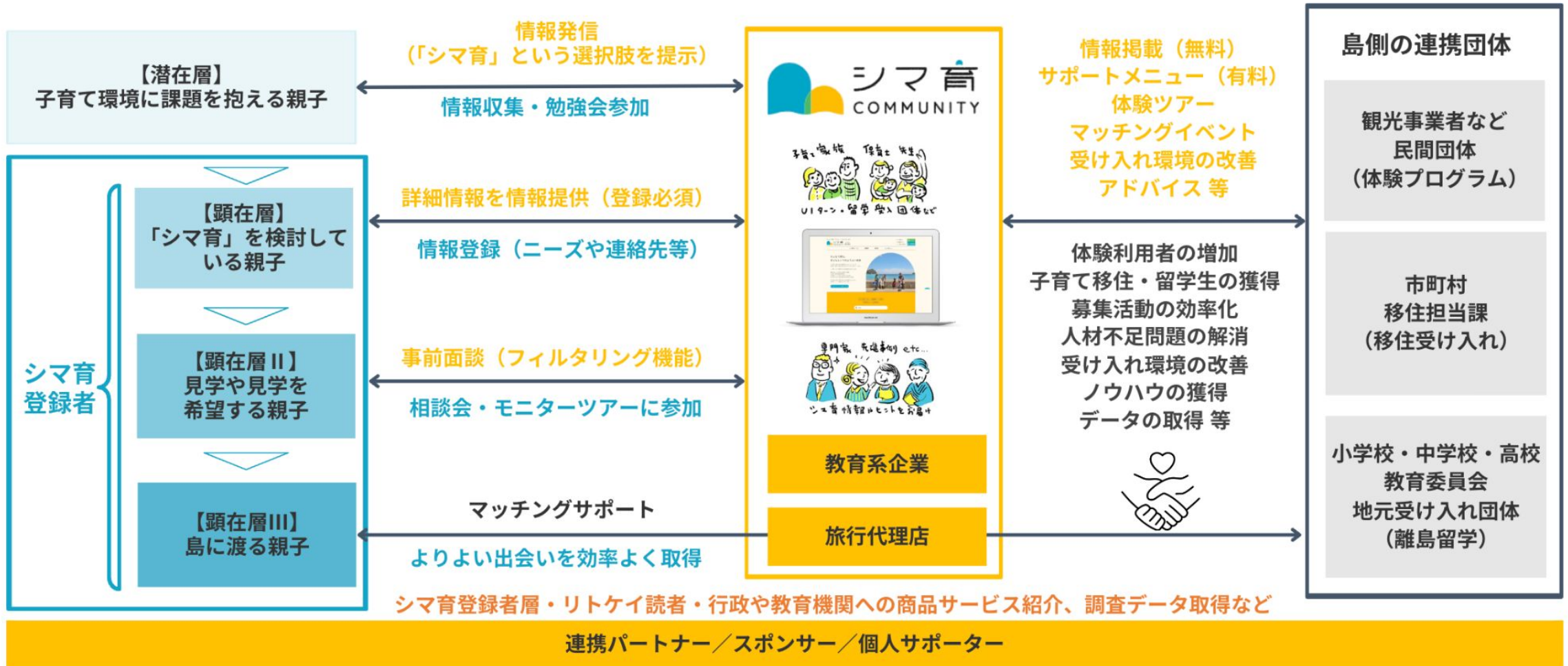
- URL : <https://shimaiku.ritokey.com/>
- 登録ユーザー数 : 181人(2024年3月末時点)
- 登録地域数 : 10地域(※)
- 公開記事 : 31本(実施期間中に公開した本数)
- 訪問者数 : 51万人(関連SNSの訪問者数含む)

(※)2024年3月末までに鳥羽市、羽幌町、唐津市、海士町、西ノ島町、佐渡市、薩摩川内市、十島村、壱岐市、上島町の情報を掲載





## 1.4 マッチングプラットフォーム(仕組み)





## 1.4 マatchingプラットフォーム(コンテンツ一覧)

### 初年度公開記事(31本)は以下の通り

No.	日時	タイトル	URL
1	2023.08.08	【勉強会レポート】離島留学って実際どう？リトケイ中城の「シマ育勉強会vol.1 佐渡島編」レポート	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/29800-2/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/29800-2/</a>
2	2023.09.08	【勉強会レポート】島ならではの“子どもの居場所づくり”って？リトケイ中城の「シマ育勉強会vol.2 答志島編」	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/30059-2/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/30059-2/</a>
3	2023.09.29	シマ育のしくみ:三重県・鳥羽市(答志島)の小中学校留学	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/toushijima/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/toushijima/</a>
4	2023.09.29	シマ育のしくみ:北海道・羽幌町(天売島)の高校留学	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/teuri/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/teuri/</a>
5	2023.09.30	島で愛された経験があれば頑張れる。佐賀・高島で教わった「寮母の哲学」	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/takashima-ryobo/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/takashima-ryobo/</a>
6	2023.10.30	十島村で見た「通船作業」   取材日記	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/diary20231001/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/diary20231001/</a>
7	2023.11.14	シマ育のしくみ:島根県・海士町(中ノ島)の小中学校・高校留学	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/nakanoshima/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/nakanoshima/</a>
8	2023.11.17	「シマ育勉強会」アーカイブ動画・レポートまとめ【随時更新】	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/meeting-collection/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/meeting-collection/</a>
9	2023.12.08	シマ育のしくみ:佐賀県・唐津(高島、小川島、加唐島、馬渡島)の小中学校留学	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/karatsu7islands/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/karatsu7islands/</a>
10	2023.12.12	【対談】汐見稔幸先生×中能孝則先生(前編):不便さがある離島は、かえっておもしろい。	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/island-where-people-grow01/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/island-where-people-grow01/</a>
11	2023.12.15	【対談】汐見稔幸先生×中能孝則先生(後編):大人に必要なものは、見守る力。	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/island-where-people-grow02/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/island-where-people-grow02/</a>
12	2023.12.19	新潟・佐渡島の子育て環境モニターツアー(前編):先輩移住者の声と病院見学	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/sado-monitor-tour01/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/sado-monitor-tour01/</a>
13	2023.12.22	新潟・佐渡島の子育て環境モニターツアー(後編):地元の買い物体験と文化祭参加	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/sado-monitor-tour02/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/sado-monitor-tour02/</a>
14	2023.12.26	島での子ども時代に「楽しかったこと」って何？リトケイ読者に聞きました	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/fun-childhood/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/fun-childhood/</a>
15	2023.12.29	島と都会の親子はクマノミとイソギンチャクのように   根ヶ山光一先生インタビュー	<a href="https://shimaiku.ritohei.com/posts/interview-negayamakoichi/">https://shimaiku.ritohei.com/posts/interview-negayamakoichi/</a>



## 1.4 マッチングプラットフォーム(コンテンツ一覧)

No.	日時	タイトル	URL
16	2024.01.09	本を借りるだけじゃない！ 地域を育む島の図書館   第3回シマ育勉強会(海士町・西ノ島)	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting03/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting03/</a>
17	2024.01.12	クソババア上等！ 里親さんたち地域が留学生を支える集落   取材日記	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/diary20240112/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/diary20240112/</a>
18	2024.01.16	どう考える？「子どもが減りゆく島」と「その未来」 リトケイ読者に聞きました	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/future-of-island/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/future-of-island/</a>
19	2024.01.19	「先生の人材育成」と「経営目線」が学校を支える！ 子どもと地域の未来のために	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/ideas-support-school/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/ideas-support-school/</a>
20	2024.01.23	“小さな島の大きな家族”になってみない？島の保育専門員募集   第5回シマ育勉強会(トカラ列島)	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting05/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting05/</a>
21	2024.01.26	「シマ育」をより深く知るおすすめ図書 島の子育て文化の記録から昭和の名著まで	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/shimaiku-books/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/shimaiku-books/</a>
22	2024.01.30	シマ育のしくみ:新潟県・佐渡市(佐渡島)の小中学校・高校留学	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/sadogashima/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/sadogashima/</a>
23	2024.02.02	子どもたちを包み込む”圧倒的コミュカ”とは？   第6回シマ育勉強会(薩摩川内市・下甕島)	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting06/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting06/</a>
24	2024.02.06	佐渡島・シマ育モニターツアー後日談。子育てに「離島留学」という選択肢を	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/sequel-sado-monitor-tour/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/sequel-sado-monitor-tour/</a>
25	2024.02.13	地域力で学校再開トカラ列島・小宝島(前編)   シマ育レポート	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-kodakarajima/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-kodakarajima/</a>
26	2024.02.20	夢中であそぶ子どもたち。壱岐のプレイパーク体験レポ(前編)   シマ育レポート	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/activity-iki_1/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/activity-iki_1/</a>
27	2024.02.27	小さな島の大きな家族！トカラ列島・小宝島(後編)   シマ育レポート	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-kodakarajima_2/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-kodakarajima_2/</a>
28	2024.03.05	こどもだけの島時間。壱岐島「こどもの島旅計画」体験レポ(後編)   シマ育取材日記	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/activity-iki_2/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/activity-iki_2/</a>
29	2024.03.12	シマ育のしくみ:鹿児島県・十島村(口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島)の小中学校留学	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/tokara-archipelago/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/tokara-archipelago/</a>
30	2024.03.19	瀬戸内海の弓削島と魚島、どちらの島で働きたい？   第7回シマ育勉強会(上島町)	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting07/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/study-meeting07/</a>
31	2024.03.26	移住者が子どもたちの“ナナメの関係”にトカラ列島・悪石島   シマ育レポート	<a href="https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-akusekijima/">https://shimaiku.ritokei.com/posts/report-akusekijima/</a>





# 1.4 マatchingプラットフォーム(コンテンツ一覧)

2024.03.26UP

移住者が子どもたちの「ナメの関係を」にトカラ列島・悪石島・シマ育レポート

シマ育コミュニティ編集部の水嶋です。1991年から独自の離島留学制度「山海(さんかい)留学」に取り組む十島村(トカラ列島)。どんな人が、どんな思いで...

#インタビュー #小学生 #中学生 #九州 #鹿児島 #離島留学 #家族型 #合宿型 #シマ育レポート #島島

2024.03.19UP

11月(土) 20時~21時

の島で働く? もの学びを支える & 島の仕事

「シマ育コミュニティ」編集長のネルソン水嶋です! 「シマ育勉強会」は島内、島内外からゲストを招き、子育てや教育について学ぶオンライン勉強会を開催して...

#勉強会 #小学生 #中学生 #高校生 #島島 #シマ育 #家族型 #合宿型 #シマ育レポート #島島

2023.09.30UP

島で愛された経験があれば頑張れる。佐賀・高島で教わった「養母の哲学」

佐賀県・高島で 養った「養母の哲学」佐賀県北西部にある唐津市は、支那に面しており、人々が暮らす有人島が7つあります。離島留学を受け入れている島は...

#インタビュー #小学生 #中学生 #九州 #鹿児島 #離島留学 #家族型 #合宿型 #高島 #佐賀 #離島留学 #合宿型 #高島

2023.09.29UP

シマ育のしくみ:北海道・羽幌町(天売島)の高校留学

「天売島」のシマ育の概要 天売島(てうりとう)北海道は、北海道北西部の日本海に浮かぶ離島です。東隣にある幌尻島とともに羽幌町に属しており、約270人...

#シマ育のしくみ #高校生 #北海道 #離島留学 #合宿型 #家族型 #天売島 #天売島

2024.03.12UP

シマ育のしくみ:鹿児島県・十島村(口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島)の小中学校留学

「十島村」のシマ育の概要 鹿児島県の十島村(としまら・トカラ列島)は、南北160キロメートルにわたる「日本一長い村」で、7つの有人島(口之島、中之島...

#シマ育のしくみ #小学生 #中学生 #九州 #鹿児島 #離島留学 #合宿型 #トカラ列島/鹿児島 #中之島 #口之島 #宝島 #小宝島 #平島 #諏訪之瀬島 #離島留学

2024.03.05UP

子どもだけの島時間。香取島「こどもの島旅計画」体験レポ(後編) | シマ育取材日記

全国各地のシマ育環境を探索するリトケイ。1月某日、編集長ファミリーが長崎県の香取島で開催されている「こどもの島旅計画」にシマ育取材しました。リトケイ...

#体験 #小学生 #九州 #長崎 #シマ育レポート #体験 #香取島

2023.09.29UP

シマ育のしくみ:三重県・鳥羽市(答志島)の小中学校留学

「答志島」のシマ育の概要 答志島(とうしじま)三重県は、伊勢湾に面する三重県鳥羽市の離島です。島内約1,800人が暮らし、保育園が2施設、小...

#シマ育のしくみ #小学生 #中学生 #近畿 #三重 #離島留学 #家族型 #答志島 #答志島 #答志島

2023.09.08UP

【勉強会レポート】島ならではの「子どもの居場所づくり」って? リトケイ中城の「シマ育勉強会vol2 答志島編」

2023年8月10日に「シマ育勉強会Vol.2 みんなでつくる子どもの居場所づくり」答志島の「子育て環境」をテーマに、離島留学のオンライン勉強会の第2回...

#勉強会 #小学生 #中学生 #近畿 #三重 #離島留学 #家族型 #答志島 #答志島

2023.12.29UP

島と都会の親子は「クマノミとイソギンチャク」のように

島と都会の親子はクマノミとイソギンチャクのように | 根ヶ山光一先生インタビュー

2020年発行のリトケイ特集「子どもは島で育てたい」(〆)「守師」の島。多島間島みる「人間本来の子育て」【特集】子どもは島で育てたい)...

#インタビュー #海あそび #野あそび #多島間島 #野あそび

2023.12.26UP

島での子ども時代に「楽しかったこと」って何? リトケイ読者に聞きました

前編、NPOリトケイでは、互いを支え合える地域共生社会(=シマ)にある人・自然・文化の中で人間力を育む「シマ育」の可能性について、有識者の山根先生...

#体験 #海あそび #野あそび #アンケート

2024.02.27UP

小さな島の大きな家族! トカラ列島・小宝島(後編) | シマ育レポート

シマ育コミュニティ編集部の水嶋です。1991年から独自の離島留学制度「山海(さんかい)留学」に取り組む十島村(トカラ列島)。どんな人が、どんな思いで...

#幼児 #小学生 #中学生 #九州 #鹿児島 #離島留学 #合宿型 #シマ育レポート #小宝島

2024.02.20UP

夢中であそぶ子どもたち。香取島プレイパーク体験レポ(前編) | シマ育レポート

全国各地のシマ育環境を探索するリトケイ。1月某日、編集長ファミリーが長崎県の香取島で開催されている「こどもの島旅計画」モニターに参加しました。リトケイ...

#幼児 #小学生 #九州 #長崎 #体験 #香取島

2024.01.02UP

島の子育ての「魅力」と「課題」って何? リトケイ読者に聞きました

400島あれば400通りの個性がある日本の島々。実際に島で子どもを育てる親はどんなことに課題を感じ、魅力を感じているのでしょうか。リトケイ読者に聞きました...

#体験 #海あそび #野あそび #アンケート

2023.12.22UP

新潟・佐渡島の子育て環境モニターツアー(後編) | 地元の買い物体験と文化祭参加

佐渡島(さどがしま)新潟県は日本海側最大の離島で、島の面積は約855平方キロメートル。島内に約55,000人が暮らしています。教育の場としては小学校...

#勉強会 #勉強会 #小学生 #中学生 #高校生 #家族型 #離島留学 #家族型 #合宿型 #野あそび #佐渡島

2023.12.19UP

新潟・佐渡島の子育て環境モニターツアー(前編) | 先輩移住者の声と病院見学

佐渡島(さどがしま)新潟県は日本海側最大の離島で、島の面積は約855平方キロメートル。島内に約55,000人が暮らしています。教育の場としては小学校...

#体験 #勉強会 #小学生 #中学生 #高校生 #家族型 #離島留学 #家族型 #合宿型 #野あそび #佐渡島

2024.02.13UP

地域のかで学校再開 トカラ列島・小宝島(前編) | シマ育レポート

最近こそ広く知られてきた、離島留学。鹿児島県、そんな離島留学を30年以上前から取り組んできた島があります。「トカラ列島」という名前に、聞き覚えのある...

#インタビュー #小学生 #中学生 #九州 #鹿児島 #離島留学 #合宿型 #シマ育レポート #トカラ列島/鹿児島 #小宝島

2024.02.06UP

佐渡島・シマ育モニターツアー後日談。子育てに「離島留学」という選択肢を

こんにちは! シマ育コミュニティ編集部の高嶋です。今回は、今年度の取り組みで、私が担当させていただいた「シマ育モニターツアー」についてご紹介いたします。...

#小学生 #中学生 #離島 #新潟 #離島留学 #取材日記 #佐渡島

2024.01.05UP

精神科医の視点で見る「この国の子どもたち」

子どもをとりまくネット空間と島環境: 精神科医・松本俊彦先生インタビュー

島に限らず日本の子どもたちの日常には、スマートフォンやオンラインコンテンツがあらゆるようになりつつあります。2020年から続いたコロナの影響も含め、日本の...

#インタビュー #海あそび #野あそび



# 1.4 マッチングプラットフォーム(コンテンツ一覧)

2023.12.15UP

### 人が育つ環境としての島という可能性

【対談】沙見裕幸先生×中能孝則先生(後編)：大人に必要なものは、見守る力。

「まず大事なのは「大人が必要以上に口を出さない」こと。大人には見守る力を持ってほしいですね。子どもは親が近寄ってくる、親を気にして動いてしまいます。...

#インタビュー #勉強会  
#離島列島/鹿児島

2023.12.12UP

### 人が育つ環境としての島という可能性

【対談】沙見裕幸先生×中能孝則先生(前編)：不便さがある離島は、かえっておもしろい。

「離島の人は、台風で船が来なくなっても、1週間くらいはやりくりができてきますが、Googleでもそういう能力を持っている人が良い仕事をしていただけて...

#インタビュー #勉強会  
#離島列島/鹿児島 #オホカブ列島/鹿児島 #宇都島

2024.01.19UP

### 地域の子どもと未来のために

「先生の人材育成」と「経営目線」が学校を支える！子どもと地域の未来のために

子どもが育つ環境には学校が不可欠で、魅力的な学校を求めたいものです。しかし、地域外から赴任してくる先生が集まる島の学校には特有の問題もあります。今回...

#インタビュー #九州 #中国  
#鹿児島 #島根 #福井 #西ノ島  
#福井県島/島根 #中ノ島 #下飯島

2024.01.16UP

### 子どもが減りゆく島とその未来

どう考える？「子どもが減りゆく島」と「その未来」リトケイ読者に聞きました

島は「人が育つ環境」として大きな可能性を秘めています。しかしながら、子どもたちの数は急激に減少し、2010年から現在までに2万人近くが減少しています。...

#体験談 #アンケート

2023.12.08UP

### シマ育のしくみ：佐賀県・唐津(高島、小川島、加唐島、馬渡島)の小中学校留学

「からつ七つの島」のシマ育の概要 佐賀県北西部にある唐津市は、島内2位の人口である一方、支庁圏に浮かぶ5島にそれぞれ約数十人〜300人の人が暮らしています。

#シマ育のしくみ #小学生 #中学生  
#九州 #離島留学 #家族型  
#合宿型 #探検型 #加唐島  
#加唐島 #小川島 #加唐島  
#唐津島 #馬渡島 #高島

2023.11.17UP

### 「シマ育勉強会」アーカイブ動画・レポートまとめ

シマ育コミュニティでは、島と参加者をオンラインで結び、離島の子どもと教育環境について学ぶ「シマ育勉強会」を開催。毎回、日本全国の島々からキーパーソンを...

#勉強会 #離島列島/鹿児島 #宇都島  
#西ノ島 #島根 #三宅島 #上飯島  
#下飯島 #中ノ島 #中野島  
#佐賀県 #山口県 #宇都島  
#大崎上島 #宇都島 #小笠原  
#宇都島 #鹿児島 #鹿児島

2024.01.12UP

### クソババア上等！里親さんたち地域が留学生を支える集落 | 取材日記

シマ育コミュニティ編集長で、運営団体のNPOリトケイ代表の藤本です。島と離島のより良い出会いをつくるべく、2023年度にスタートした「シマ育プロジェクト」...

#小学生 #中学生 #九州 #鹿児島  
#鹿児島留学 #家族型 #取材日記  
#鹿児島列島/鹿児島 #下飯島

2024.01.09UP

### 地域力を育む島のコミュニティ図書！(海士町・西ノ島)

本を借りるだけじゃない！地域を育む島の図書館 | 第3回シマ育勉強会(海士町・西ノ島)

こんにちは！リトケイ編集部の中野です。「シマ育勉強会」は毎回、島内外からゲストを招き、子育てや教育について学ぶオンライン勉強会を開催しています。ちな...

#勉強会 #小学生 #中学生 #高校生  
#中国 #島根 #鹿児島留学 #家族型  
#合宿型 #西ノ島 #福井県島/島根  
#中ノ島

2024.02.02UP

### 子どもたちを包み込む「圧倒的コミュニティ」は？ | 第6回シマ育勉強会(薩摩川内市・下飯島)

はじめまして、編集部の高橋です。去年からシマ育コミュニティの取り組みに参加しており、記事を書くのは今回が初めて！なお、今回の舞台となる飯島には2回訪...

#勉強会 #小学生 #九州 #鹿児島  
#鹿児島留学 #家族型 #鹿児島列島/鹿児島  
#下飯島

2024.01.30UP

### シマ育のしくみ：新潟県・佐渡市(佐渡島)の小中学校・高校留学

「佐渡島」のシマ育の概要 新潟県沖の日本海に浮かぶ佐渡島(さがしま|新潟県)は、面積約856平方キロメートルの島約95万人が暮らし日本海側最大の離島...

#シマ育のしくみ #幼児 #小学生  
#中学生 #高校生 #家族型 #合宿型  
#鹿児島留学 #家族型 #合宿型  
#中国 #島根 #鹿児島留学 #取材日記  
#探検型 #福井県島/島根 #中ノ島

2023.11.14UP

### シマ育のしくみ：島根県・海士町(中ノ島)の小中学校・高校留学

「海士町(中ノ島)」のシマ育の概要 海士町(あまちょう|島根県)は、島根県の北方、日本海に浮かぶ隠岐諸島のひとつ、中ノ島を主島とする町です。かつては少...

#シマ育のしくみ #小学生 #高校生  
#中国 #島根 #鹿児島留学 #家族型  
#合宿型 #福井県島/島根 #中ノ島

2023.10.30UP

### 十島村で見た「通船作業」 | 取材日記

シマ育がさしに北へ南へこんにちは！シマ育コミュニティ編集部の高橋です。普段は、鹿児島県にある沖永良部島(おきのえらぶじま)という離島で暮らしています...

#小学生 #中学生 #九州 #鹿児島  
#鹿児島留学 #合宿型 #取材日記  
#小笠原

2024.01.26UP

### 「シマ育」を深めるシマ育Books

「シマ育」をより深く知るおすすめ図書 島の子育て文化の記録から昭和の名著まで

子育てを教育を強化するための具体的な、教育魅力化における変化の軌跡など、より深く「シマ育」を知るためにはどうすればよいのか、誰もが気になることのひとつ...

#中ノ島 #多島列島 #大崎上島

2024.01.23UP

### 「地球の上で生きる“小さな島”の：列島・十島村の留学&保育士のお仕事

「小さな島の大きな家族」になってみない？島の保育専門員募集 | 第5回シマ育勉強会(トカラ列島)

「シマ育コミュニティ」副編集長のネルソン高橋です！「シマ育勉強会」では毎回、島内外からゲストを招き、子育てや教育について学ぶオンライン勉強会を開催し...

#勉強会 #幼児 #小学生  
#九州 #鹿児島 #オホカブ列島/鹿児島  
#中ノ島 #山口県 #鹿児島 #小笠原  
#宇都島 #鹿児島 #鹿児島

2024.01.05UP

### 精神科医の視点で見るこの国の子どもたち

子どもをとりまくネット空間と島環境：精神科医・松本俊彦先生インタビュー

島に限らず日本の子どもたちの日常には、スマートフォンやオンラインコンテンツがふれるようになりました。2020年から続いたコロナ禍の影響も含め、日本の...

#インタビュー #海あそび #野あそび

2024.01.02UP

### 島の子育ての「魅力」と「課題」

島の子育ての「魅力」と「課題」って何？リトケイ読者に聞きました

400島あれば400通りの個性がある日本の島々。実際に島で子どもを育てる親はどんなことに課題を感じ、魅力を感じているのでしょうか。リトケイ読者に聞きました...

#体験談 #海あそび #野あそび  
#アンケート



## 1.5 勉強会の実施

- 内容: 共同養育の拡大に向けた定期勉強会を実施
- 開催数: 10回
- 参加者数(目標数): 累計436名(累計200名)
  - 目標とした200人を2倍以上上回る436人の参加があった
  - YouTube再生回数も448回と、ニッチなターゲットにも関わらず、離島留学の情報発信に関するニーズが高かったことを裏付ける結果となった
  - 参加者の中から、実際の留学申込みやモニターツアーへの参加、人材募集への応募などのアクションにつながるなど具体的な成果が出た





## 1.5.1 勉強会詳細

計10回実施、累計で436人参加、YouTube再生回数448回と、目標を大きく上回る結果となった

No.	日時	タイトル	申込者数	YouTube再生回数
1	2023/07/06	離島留学の基本と佐渡島・松ヶ崎&内海府のリアルな子育て環境	21人	59回
2	2023/08/10	みんなでつくる子どもの居場所づくり&答志島の子育て環境	12人	18回
3	2023/09/28	子どもも大人も集まれ！地域力を育む島のコミュニティ図書館	40人	42回
4	2023/10/26	“人”が育つ環境としての“島”が持つ可能性	60人	49回
5	2023/11/30	地球の上で生きる島々。トカラ列島の子育て&留学&保育士のお仕事	37人	87回
6	2023/12/21	子どもたちを包み込む圧倒的コミュ力。甑島のウミネコ留学に学ぶ	41人	91回
7	2024/01/18	どちらの島で働く？『子どもの学び』を支える弓削島&魚島の仕事	22人	14回
8	2024/01/25	大崎上島の『大崎海星高校魅力化プロジェクト』を支える公営塾と教育寮の仕事	29人	20回
9	2024/02/15	子育て教育環境づくりの「お金」どうしてる？相談会	36人	6回
10	2024/03/07	子どもの居場所づくり最前線	138人	62回
		合計	436人	448回
		目標	200人	
		進捗率	218.0%	



## **2. 事業のソーシャルインパクト**



## 2.1 チラシ配布実績

### ● 制作実績

- 『季刊ritokei』44号(タブロイド版 10ページ)(16,000部)
- チラシ(B5版 1ページ)13,000部
- チラシ(A4版 2ページ)1,000部

### ● 設置・配布方法

- 『季刊ritokei』公式設置ポイントに設置
  - 175島 本土205市区町村 1,310カ所(2024年3月末)
- アイランダー2023会場にて配布



『季刊ritokei』44号特集



2023年11月18日(土)・19日(日)に開催された「アイランダー2023」会場にて、『季刊ritokei』44号およびチラシを配布

チラシ(B5版)



チラシ(A4版)





## 2.2 広告掲載

- 認知拡大のため他媒体に情報を掲載
  - プレスリリース掲載(PR Times)2023年10月3日
  - ストーリー掲載(PR Times Story)2024年3月14日
  - インタビュー掲載(コロカル)2024年3月28日



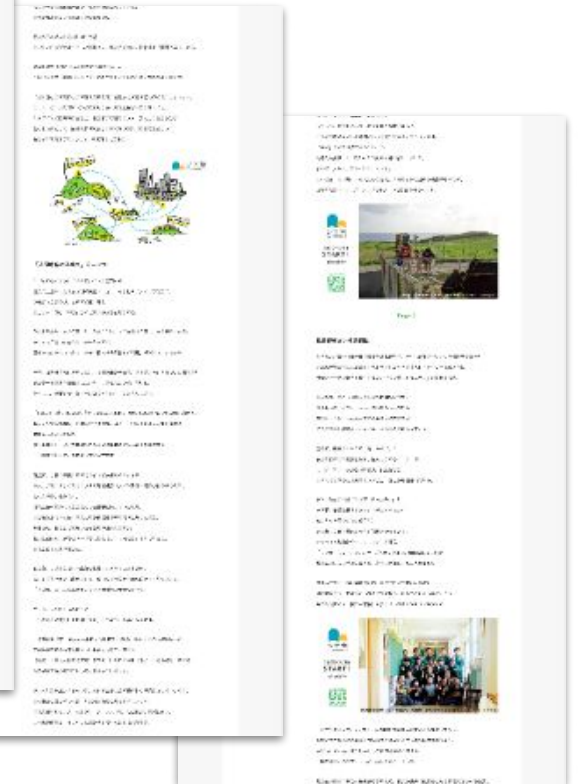
『PR Times』



『PR Times Story』



『コロカル』

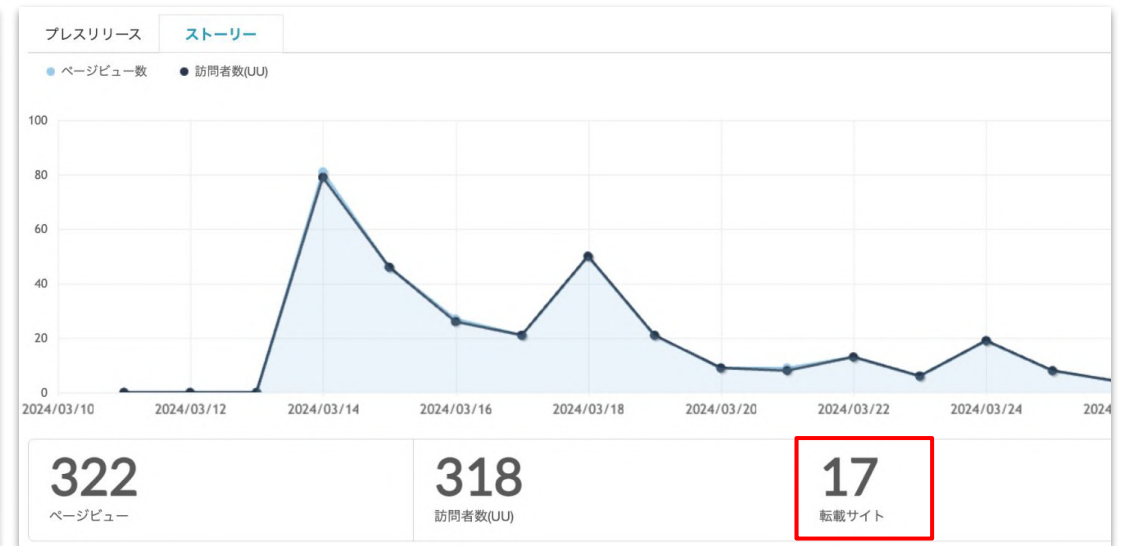




## 2.3 事業のソーシャルインパクト

他メディアへの掲載数: 43媒体(目標20媒体)

20媒体の目標に対して43媒体に掲載。また、期間中に離島経済新聞社スタッフが出演するラジオ番組やポッドキャスト等でも宣伝を行った。







### **3. 今後に向けての取組**



### 3.1 事業で得られた成果と今後の課題

初年度は、同プロジェクトの対象となる「親子」および「地域コミュニティ」の状況やニーズを把握したうえで、両者が結びつくためのプラットフォームを立ち上げ、情報収集・情報発信・ノウハウの集積および共有・ファンドレイジング機能の構築した。その結果、予定を大幅に上回る登録者や参加者を集めることができたため、2026年3月頃には登録者が1,000人を超えると見込まれる。これにより、人口過密地域で子育てに悩む親子が、離島・過疎地域等に存在する優れた共同養育の場と結びつくことで、人と人との支え合いや大自然のなかで「生きる力」を育む親子を増やすと共に、人口減少地域のコミュニティに活気を与え、社会機能の維持につなげるという最終目標への貢献が可能となる。

離島・過疎地域には「生きる力」や「非認知的能力」を養うことのできる優れた共同養育の場が存在し、人口減少の課題に対応するべく地域外の子どもや親を受け入れる活動団体も年々増えている。しかしながら、地域側では人手不足が年々深刻化しており、市町村の職員不足や財源不足により、子育て教育環境の魅力化や、人材募集活動が十分に行えない状況がある。そこで、ヒト・モノ・カネ・情報を集めながら、地域の必要を補完する中間支援が重要となるが、離島・過疎地域においては各地域特有の風土や生活文化への理解や配慮も必要であるため、地域の実情と都市の親子が持つニーズを共に把握しながら、丁寧なマッチングを行い続ける活動が必要である。



## 3.2 次年度以降の取組

---

地域の実情と都市の親子が持つニーズを共に把握しながら、丁寧なマッチングを行い続ける活動として、引き続き下記の取り組みを継続する。

- 「シマ育コミュニティ」のサイト継続、定期的な記事掲載
- 「シマ育勉強会」の継続的な実施
- 「シマ育モニターツアー」の実施